

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立宮西小学校	学校 No.	1
-------	-----------	--------	---

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（1）目標

①福祉について、インターネットや図書資料、福祉読本「ともに生きる」等を使って情報を収集し、多様性について理解を深める。

②福祉実践教室を含めた総合的な学習の時間を通して学んだことや考えたことを、国語科の学習で報告書にまとめ、これからの社会、自らの生き方に生かすようにさせる。

（2）活動計画

①インターネットや図書資料、福祉読本「ともに生きる」等を活用し、福祉についての意識を高める。

②福祉実践教室での体験を通して、自分にできることを考える。

③国語科の「みんなが過ごしやすい町へ」の報告書としてまとめ、活動を振り返る。

（3）推進体制

5年生の総合的な学習の時間（福祉実践教室を含む）、国語科の「みんなが過ごしやすい町へ」の学習として取り組み、学年全体で計画・実践を行った。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

①インターネットや図書資料、福祉読本「ともに生きる」等を活用し、福祉についての意識を高める。

・福祉読本「ともに生きる」を活用することで、福祉について学ぶことができた。また、福祉実践教室において自分が体験を行う「視覚障がい者ガイドヘルプ」「手話」「車いす」について、事前に調べ学習を進めた。

②福祉実践教室での体験を通して、自分にできることを考える。

・11月1日に行った福祉実践教室では、「視覚障がい者ガイドヘルプ」「手話」「車いす」の3つの講座に分かれて体験学習を行った。実際に体験することで、資料だけでは分からなかったたくさんことに気づくことができた。福祉について自分にできることを考えるきっかけとすることができた。

11月1日（金） 5年生 福祉実践教室
公開日 2024/11/01
今日は社会福祉協議会の方に学校へ来ていただき、5年生の児童が「福祉実践教室」の授業に参加しました。
最初は学年全員で車いすを使って生活を送ってみる方から、車いすでの生活の話をうかがいました。その後、車いす体験・視覚障がい者ガイドヘルプ体験・手話体験に分かれて、それぞれの体験をさせてもらったり、直接お話をうかがったりしました。子どもたちはメモをとりながら、真剣に体験に取り組み、障がいのある方が実際の生活で困っていることなどについて理解を深めました。



2月4日（火）6年生 夢の力
公開日 2025/02/04
本日は、パラアスリートの井谷俊介選手の講演に参加しました。井谷選手と一緒に走った児童は「加速がすごかった」と感動していました。井谷選手から、「周りの人に感謝する」や「誰かのためにがんばる」という激励の言葉をかけていただきました。
残りわずかの小学校生活では、今まで関わった人、周りの人に感謝を伝えていけるといいですね。



3. 福祉教育の成果と今後の課題

福祉実践教室を含めた総合的な学習の時間を中心に、国語科「みんなが過ごしやすい町へ」の報告書として活動をまとめ、振り返りを行うことができた。子どもたちは事前の調べ学習の段階では「福祉」について漠然としたイメージしかもっていなかったが、福祉実践教室での体験学習を通して共生の大切さとともに、「自分たちも何かしたい」という意識を高めることができた。また、2月にはパラアスリートである井谷俊介氏の講演を聞く中で、「自分も夢に向かって努力したい」「いっしょにかけっこをしたけど、速くてびっくりした。感動した」など、自分の将来について考えるきっかけとすることができた。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立貴船小学校	学校No.	2
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） ・ 目 標 高齢者や障害のある人たちにとって、住みよい社会とはどんな社会なのかを体験活動を通して考え、自分たちができることを調査・追究することができる ・ 計 画 【1学期】福祉実践教室 2学期【赤い羽根共同募金】 【3学期】学習発表会への参加 ・ 推進体制 福祉教育部会を組織し、各学年と調整して計画を具体的に推進する。 児童会の運営委員会が中心となって募金活動などを計画し推進する。 2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） ・ 福祉実践教室 事前に各学級でテキストの「思い出してごらん」を使用し、障害がある人にとって、日常生活の中で困ることは何か話し合い、福祉について学習を行った。福祉実践教室が行われ、はじめに講義を聞き、視覚障害について学習した。その後、「車いす」「点字」「手話」「ガイドヘルプ」の4つのコースに分かれ、約1時間の各体験活動を行った。車いす体験では、車いすの基本的な操作方法を学び、マットで作った段差を乗り越える体験をした。点字体験では、点字を読んだり、自分で書いたりして、目の不自由な人にとっての点字の便利さとありがたさを学んだ。手話体験では、あいさつや指文字など、身近に使える手話を友だち同士で伝え合う体験をし、筆談や空書など、目が不自由な人の会話の仕方があることを学んだ。ガイドヘルプ体験では、2人1組になって、アイマスクをした状態での階段の上り下りや、障害物のある道の通行を体験した。どの体験でも、児童たちは、障害をもった方々の苦労や工夫を理解することができた。実際に体験してみて、大変さを理解すると同時に、誰もが住みやすい社会を作っていくために自分たちに何ができるのかを考えるきっかけとなった。 ・ 学習発表会 福祉実践教室で学んだことをさらに深めるために、総合学習で「誰もが住みやすい街づくり」にはどのようなことが必要か、グループで調べたり、話し合ったりして学習を進めた。実生活の中で、視覚障害の方の不安や危険なことに気づき、より安全に過ごすためにはどうしたらよいかについて考えたグループは、超音波を利用して道案内をしてくれる方法を考えた。また、この方法は視覚障害の方だけでなく、誰にとっても安全に街を歩くことができる方法であることに気づいた。また、AIを搭載した白杖の存在を知ったグループは、過ごしやすく改善されている一方で、それでも知らない人に「助けてほしい」ときはどうか、という疑問をもった。実際に声をかけようとしたが、「逆に迷惑になってしまうのではないか」という不安になり、声をかけられなかった経験があったと話した。そこで、小学校や中学校で障害のある方ともっと交流する機会を増やすとよいと考えた。子どものうちから障害のある人たちへの理解を深めることで、大人になってもその人たちの気持ちが分かり、すぐに助けにいくことができると考えた。これは障害がある人に限らず、困っている人なら誰でも助かることに気づいた。この学習を通して、障害のある人にとって住みやすい街は、誰にとっても安全で心地よく生活できる街であると気づいた。各班で調べたり、考えたりしたことを発表し、保護者にも聞いていただいた。 3 福祉教育の成果と今後の課題 ・ 5年生では、総合的な学習の時間に「福祉」をテーマに学習に取り組んだ。テキストを読むだけでなく、講義を聞いたり、実際に体験したりすることで、これから自分たちは何ができるのか、どのような社会を作っていくべきなのかを考えることができた。 ・ 総合的な学習の時間の時数が減少し、5年生でも「福祉」についての学習時間が減少した。時間と情報を有効に活用し、福祉についてより深く理解していけるよう今後も見つめる心と実践力を身につけさせていきたい。			

令和6年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立神山小学校	学校 NO.	3
-------	-----------	--------	---

1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)

(1)目 標
福祉に関する実践学習の機会を提供し、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア、社会連帯の精神を養うとともに、地域社会への連帯を深めることを目的とする。

(2)計 画
・奉仕活動への参加 ・赤十字活動への参加 ・各種募金活動 ・あいさつ運動
・福祉実践教室 ・ペットボトルのキャップの回収 ・あったか家族週間

(3)推進体制
計画に該当する学年または児童会・委員会で計画的・具体的に推進する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)

(1)体験活動

①校内清掃活動
1学期には月に1回「草取りの日」を設定し、全校児童が参加した。活動によって校内の美化体験をすることができた。

(2)実践活動

①福祉実践教室
5年生が視覚障害者ガイドヘルプ・手話・点字・車椅子等の活動を通し、体の不自由な方への理解を深めることができた。児童からは、「障害を持っている人も同じ人間なんだと改めて実感した」「障害があるなしに関係なく共生できる世界を作っていきたい」といった声が聞かれた。

②国際社会への貢献
国際交流委員会がペットボトルのキャップ回収をよびかけて集めている。これらをプラスチック再生業者に搬入することで、NPO法人「世界の子どもにワクチンを」の活動に参加した。

③卒業式に向けた花の栽培活動
卒業式の会場に飾る花を育てる活動に取り組んだ。1年生から5年生の児童に6年生のために育てる活動であることを意識させて取り組んだ。大きく育てるためにつぼみを摘んだり肥料を与えたりと6年生のために頑張ろうという気持ちで積極的に取り組む姿が見られ、奉仕の精神を養うことができた。

(3)活動の広がり
あいさつ運動では代表委員会と生活委員会の児童が中心となって活動している。2学期には、地域の方や保護者、中学生と児童が共にあいさつ運動を行った。いつでもだれにでもあいさつできるために運動を継続している。
また、あったか家族週間では、中部中学校区で連携して運動を実施した。家族とふれあい、相手を思いやる心を育むことができた。

【福祉実践教室の様子】

【あいさつ運動の様子】

【あったか家族週間のチラシ】

3. 福祉教育の成果と今後の課題
今年度の取り組みにより、多くの児童の福祉に対する意識が高まった。また、進んであいさつ運動や栽培活動に参加する中で、他者への思いやりの気持ちが高められた。実践力の向上をめざし、継続的に活動を進めたり、体験的な活動を増やしたりしていきたい。

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立大志小学校	学校 No	4
-----	-----------	-------	---

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目 標

- ・福祉実践教室を通して、福祉への関心を高める。
- ・地域社会で「ともに生きる」明るい社会をみんなの手で作り出そうとする気持ちを育てる。
- ・調べ学習を通して、お年寄りや障害のある人に対する理解を深める。
- ・自分たちに何ができるかを考え、実践することで豊かな心を育む。

(2) 計 画

- ・福祉実践教室を通して、福祉への関心を高める。
- ・人権週間中の活動を通して、お互いを大切にする心を育む。
- ・あいさつ運動や募金活動に取り組む。

(3) 推進体制

校長（教頭）－校務主任－4 年生担任－全職員

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動記録）

○福祉実践教室

- ・視覚障がい者ガイドヘルプと手話講習会を受講した。（4 年生）学習後、学んだことを自分たちでまとめた。（サインペンを使用）

【ガイドヘルプの様子】

【手話講習会の様子】

○人権週間での活動

- ・校長講話、ふわふわ言葉集め、人権標語募集

○ユニバーサルデザインについての学習（4 年生）

- ・保健体育の授業で、公共施設のユニバーサルデザインについて学習した。

○あいさつ運動・募金運動

- ・児童会が中心となり、あいさつ運動や赤い羽根募金を呼びかけ、実施した。（ポスターにサインペンを使用）

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度も福祉実践教室を実施することができた。実際に体験することによって障害のある方に対して自分たちがどのように支援できるかを考える良い機会となった。福祉教育を通じて、障害のある方の立場や日常生活の困難さを理解し、思いやりの心を育むことができたと感じる。その成果として、参加者の多くが障害のある方への接し方に対する意識が高まり、日常生活の中でできる小さな配慮の重要性を認識することが出来た。

今後も、障害のあるないに関わらず、学級の友達や周りの人達に優しく接することを心掛けさせながら指導に当たっていきたい。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立向山小学校	学校No.	5
-------	-----------	-------	---

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（1）目標

①社会福祉体験を通して障がいのある人たちの暮らしの実際に気づかせ、思いやりの心を育てる。

②自分を大切にするとともに友達の大切さを認めることができるようにする。

（2）計画

①福祉実践教室（5月）福祉に関する調べ学習・発表（9月～1月）

②笑顔あふれる学校にするための取り組み（12月）

（3）推進体制

①5年生の総合的な学習として取り組み、学年全体で計画・実践する。

②全校で「アイスで笑顔キャンペーン」を行い、思いやりの心を育てる。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（1）福祉実践教室

5月17日（金）に、①車いす②手話③視覚障害者ガイドヘルプ④点字の4つのグループに分かれて福祉実践教室を行った。「車いす体験」では、車いすの扱い方や介助の仕方を学ぶとともに、足の不自由な方が何に困っているのかなど、体験を通して知ることができた。また、「点字体験」では、点字表を見ながら点字器を使って実際に点字を打ったり、自分の作成した点字を読んだりする体験を行った。児童の想像以上に点字の作成や判読が困難であり、目の不自由な人の苦労や、自分の住む町の不便さについて気づくことができた。「手話体験」では、簡単な手話を覚えやってみる体験を行った。「ありがとう」など手話を実際に行うことでもっとやってみたいと手話への関心を高めることができた。体験を通して、障害を持っている方の苦労や、自分にできる支援について考えることができたようになった。

（2）福祉実践教室後の事後学習

福祉実践教室で学んだことをもとに、学校生活の中にあるバリアや支援、自分たちにできることは何かについてさらに調べ学習を行った。学校生活の中にあるバリアについては、もし自分やクラスの友達が障害をもってしまったら、どのような場面で困るのか、実際に学んで確かめた。そして、自分たちにできることは何なのかを話し合い、考えたり分かったりしたことをスライドにまとめて、学習発表会で他の学年の友達や保護者、地域の方に伝えた。

（3）人権週間での「アイスで笑顔キャンペーン」

本校の1年間のキャッチフレーズ「アイスで笑顔」を全校に広めようと、人権週間にキャンペーンを行った。友達に対して「ありがとう」「いいね」「すごいね」と思ったことを言葉に表した。「親友がいつも一緒に遊んでくれる」「友達が二重とびを連続でできていてすごい」などと書かれたものを給食の放送に生活委員が発表するとともに廊下に掲示し、全校の目に留まるようにした。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

5年生は、1年間を通して福祉について学んだ。福祉実践教室をきっかけとして、そこから学びを広げ、事後指導を通して福祉を身近に感じ、考えさせることができた。最初は障害に対して、「助けてあげる」「かわいそう」という考え方だったが、「そばにいて役立ちたい」「話を聞いて力になりたい」といった、同じ立場に立って考えようとする児童が多く見られるようになった。福祉実践教室だけだと単発で終わってしまうので、事前学習や事後学習をすることが大切だと、本実践を通して感じた。



※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。